

学校法人 日章学園 鹿児島育英館中学・高等学校 学校評価 令和3年度 総括評価表

建学の精神		一、道義に徹し 一、実利を図り 一、勤労を愛す				
学校教育目標		「自ら学ぶ意欲と豊かな心を持ち、個性や能力を発揮し、自己実現をめざす生徒を育成する」				
目指す学校	①豊かな環境で、感性と心を育てる学校 ②個性や能力を磨き、鍛え、伸ばす学校 ③温かい雰囲気を持ち師弟同行で歩む学校 ④地域に開かれ、誰からも信頼される学校	育てる生徒像	「常に英才たれ」 己を愛し、人を愛し、大志を持って生きる、実行の人 ① 志は高く、思いやりの心を持ち、前向きに生きる ② TPOに応じた明るく元気なあいさつのできる ③ 文武両道をめざし、何事にも粘り強く努力する ④ 心身共に健康であり、額に汗する勤労を愛す ⑤ 母校愛や郷土愛に燃え、地域、家族に感謝の念をもつ	重点目標	① 学習の仕方を丁寧に指導し、保護者と協働して、自学自習を定着させる ② 学習意欲を高め、落ち着きを与える学級設営を工夫する ③ 美化意識の高揚を図り、整理整頓から始めて、無言作業を徹底する ④ グループ活動の機会を増やし、言語活動を活性化し、自ら学び合う集団を育てる ⑤ 自己肯定感を高め、お互いのよさを認め合う学校行事、教育活動を積極的に展開する。	評価基準 4：十分達成できている 3：おおむね達成できている 2：どちらかというとな達成できていない 1：ほとんど達成できていない
重点目標	評価項目	具体的な方策	評価	成果	課題	
基本的 生活習慣の 確立	望ましい生徒像は 明確であるか	①明るく元気よく あいさつできるか	B	ア 礼法指導が少なくなったが、生徒のよい行動を取り上げて賞賛して、さらなるランクアップをめざすように指導している。 大きな声で挨拶できている。 イ 場に応じた声の大きさや挨拶の仕方ができるように指導している。どの生徒も明るく元気よく挨拶をしている。	ア 概ねできているが、一部の生徒ができていない。 イ コロナ禍でマスクをしているため、元気な挨拶は少なくなっている。よりはっきりとあいさつをするように指導が必要。自信を持たせる必要がある。	
		②お互いのよさを 認め合う態度は できているか	B	ア 人数が少ないため、生徒がお互いを理解しようとしてる。 イ 発達段階や程度にもよるが、高校生は相互尊重もできている。中学生も認めるところは認めている。	ア 望ましい集団生活のあり方について、担任との連携をもっと深めた指導が必要である。 イ 相手の良さに気づいているが言葉に表すことができていない。また、一部で思いやりに欠ける生徒がいる。お互いのよさを認め合う機会を増やす必要がある。	
	保護者等との連携 はとれているか	A	ア 学級通信・育英館NOW・マチコみやClassiなどで情報を発信している。他校と比べ、割とよく連絡をとり、連携に努めている イ 担任や部顧問など、連絡をとり、学校で起きたことや困り感などを随時伝えている。	ア コロナ禍もあり、保護者と直接連絡する機会が少なくなった。連携を密にする必要性を感じる。		
基本的 生活習慣の 確立	マナーやルールは 守られているか	①J Rや通学バス 利用時のマナーや ルールは守られて いるか	B	ア おおむね落ち着いた行動がとれている。 イ 定期的に指導ができた。	ア おおむね守られているが、JR利用で外部から注意を受けたことがあった。 イ 利用者を定期的に集め、ルールやマナーの確認が必要。また、通学指導や下校指導を定期的に行う必要がある。	
		②情報セキュリ ティ等に関するモ ラル教育はなされ ているか	B	ア 情報モラルに関する教室を行い指導をしている。 イ 長期休みに入る前に、生徒指導部から毎回指導している。 ウ 様々な授業を通して、特に強調して指導している。	ア 様々な授業で指導はしている、がまだ取り組み方は不十分であるため、更に指導が必要。 イ SNSに関するトラブルなども起きています。携帯・スマホの使用について、保護者を交えての使用や許可の在り方について、今一度ルールを確認する機会が必要。	
	美化活動は適切に なされているか	A	ア 校舎や校庭はよく清掃されている イ 清掃時間以外にも愛校デーという日を設けて、生徒全員で掃除に取り組んでおり、学校美化を意識する機会にもなっている。	ア 今年度は2回愛校作業を実施したが、今後も続けていく必要がある。 イ 更に隅ずみまで、無言で取り組ませる指導が必要。		
部活動	①校内の掲示は適 切になされている か	A	ア 各教科、自主的に新しいものへの張替えを行っている。また、それぞれの教科で内容を工夫して掲示できていた イ 英字新聞や、クラス廊下掲示も良く努められている。	ア 新聞の切り抜き記事を掲示した教科内容の啓発につとめたが、今後は生徒の閲覧を促す手立てが必要。		
	部活動をととし て生徒の成長はみ られたか	B	ア コロナ禍で制限の多い部活動運営となり、思うような活動ができない部分があったが、生徒の成長が見られた。 イ 全員部活動制でなくしたことにより、より充実した放課後の使い方ができるようになった。	ア 生徒数減の中、運営委の難しい部も多く、部活動の再編は常に考える必要があるが、やる気のある生徒たちのためにも、他校との合同チームも模索する必要がある。 イ 生徒たちが自信を持てるように、日々の活動をより充実させていく必要がある。		
教育相談	①養護教諭と連携 はとれているか	A	ア カウンセリングなどを通して生徒の情報を共有し、折に触れて、喫緊の課題等についても連携が図れた イ 悩み・問題を抱える生徒への支援がスムーズに行われ、生徒の情報共有が細かにできた	ア 精神的に弱い生徒が増える中、小学校や中学校とより連携を深める必要がある。		
学習 習慣の 確立	年間指導計画は活 用されているか	A	ア コロナ流行にともなう変動的な状況の中で、ZOOM等を活用して、どの学年もシラバスに基づいて指導内容の完全履修ができた	ア 新型コロナ対策による休校や閉鎖に伴う乱れがある場合などに、あらかじめ備えが必要である。		
	自己実現の基盤と なる力	B	ア 主体的で対話的で深い学びとなる授業展開がなされたか イ 多様な考え方を意見交換し、共有し課題解決の方法を話し合うことができた。	ア 新型コロナウイルス対策を施した環境下では、話し合い活動やグループ活動が難しく、今後も検討が必要。 イ 主体的で対話的な授業を心がけているが、深い学びになっているかについては、まだまだ研究研修を積み必要がある。		
英語教育の 推進	②学習の仕方を指 導し、生徒の自学 自習を定着させ ることができたか	B	ア 日々題や週末課題、予習の取り組み方を確認し、不適切なものは指導を行って改善してきた。 イ 模試の比較や、今後の学習方法を指導している。また、演習ノートの取り方活用法を指導し、生徒も実践していた。	ア 指導は行っているが、生徒によって定着の差がある。助言はしているが見届けを継続的に続ける必要がある。		
	①中学校で英検3 級、高校生で英検 2級取得に努めて いるか	A	ア 特に特進コース、高校生の取り組みが良かった。 イ 英語科を中心に英検の受験を推進し、指導している。	ア 検定前だけでなく日頃からの学習を推進する必要がある。 イ 100%の合格率を目指し、今後も努力を続ける。		

	大規模な授業	②校内の掲示物や表示を英語で表記し、英語学習の環境作りに寄与して	B	ア 教室名・生活目標などは、英語で表記されている。	ア まだまだ余地が多く、今後は生徒会を中心に取り組みを広げる必要がある。
	土曜錬成講座について	①学習教材や教師の指導法に工夫が見られるか	A	ア 通常の授業50分ではできない模試の演習や応用問題に取り組んでいる。 イ 模試・入試の演習を行い、教材は過去問を使用し、効果は得られている。	ア より効果が上がるように職員間での研鑽が必要である。
二 学 習 習 慣 の 確 立		②生徒は意欲的に取り組んでいるか	B	ア 欠席も少なく、新た学びを得ようと集中して取り組んでいる。 イ 普段できない模試の演習なども必ず問題を解いて参加しており、意欲的に取り組んでいる	ア 一部の生徒から意欲的でない発言が聞かれた。やや疲れ気味の傾向もみられるため、内容などさらに研究が必要である。
	体育コース（中学校）	①各種大会で実績をあげられるよう指導がなされているか	A	ア コロナ感染拡大の中で、ミーティングなどをよく行い、全国大会出場など素晴らしい成果を上げている	ア 生徒たちの更なる意識の変革をどうするかが課題である。 イ 実績だけでなく、日常生活にそれを反映させることも重要である。
	基礎学力定着の為に10分間テスト	①不合格者への放課後指導がなされているか	A	ア 追試を放課後の毎回実施するなど、先生方も空き時間や勤務時間外の時間を使って指導している。 イ 範囲を事前に課題として取り組ませ、不合格者は合格できるまで追試、補充指導を行っている。	ア 行事やコロナ禍のため、テスト自体の実施が少なかった。回数の確保が課題である。
三 進 路 の 実 現	高等学校の個別指導について	①3年間を見通した指導がなされているか	B	ア 常に大学進学・模擬試験の話題に触れさせ、生徒の自覚を高めるように促している イ 定期的実施される学力検討会や進路検討会で教科の取り組み状況に応じて、各生徒に必要な指導を心がけられている。 ウ 入学当初の実力より、ランク上の大学に進学もできている。	ア 今後さらに進路選択の幅が広がる中、生徒の特性に応じた個の指導を間策する必要がある。 イ 担任と連携を取りながら、各教科のバランスを見て更なる指導が必要である。
		②生徒の志望校合格対策として機能しているか	B	ア 普段の演習から、難関大を意識した問題を取り入れている。 イ 希望の生徒には個別指導を行い、また、随時働きかけを行っている。	ア 大学入試の形式が日々変化していくため、不断の研究が必要である。
	高校生の進路指導	①主体的にライフデザインを考えられるような仕掛けが工夫されている	B	ア 授業中など、機会があるたびに話をしたり、iPadを使用し、大学や職業を調べるように促している。 イ コロナ禍で進路の行事も厳しい状況であったが、計画に沿って滞りなく実施された。	ア 授業担当の教員以外にも語れる機会を作り、チームとしての取り組みをさらに模索する必要がある。
		②高3生全員が志望校に合格するように指導がなされているか	A	ア 各教科共に、合格実現のための教科指導や添削指導などが為されていた。 イ 総合型選抜や学校推薦型選抜など生徒に合わせた指導ならびに面接指導など全職員で協力し指導できている。 ウ 学力検討会や進路検討会などで共通理解を図り、生徒個々に応じた指導を行えた。	ア さらに良い結果を目指し、今後も進路検討会や学力検討会での研鑽を続けていくことが必要である。
	中学生の進路指導	①進路計画に沿った指導がなされているか	B	ア 担任・進路指導部を中心に中高一貫教育を意識した進路指導ができている	ア キャリア教育の年間指導計画に沿った取り組みはできているが、更に日常の個別の語りかけも必要である。
		②キャリア教育を充実させるため、職場体験学習等が活用できているか	A	ア 進路指導部によるキャリア教育の年間指導計画に沿った取り組みが計画的になされている イ コロナ禍ではあったが、職場体験学習並びに企業研修を行えた。事前事後の指導もきちんと行えた。	ア 職場体験や学校見学以外にも、教育講演会や芸術鑑賞会など様々な行事を活用する必要がある。
四 生 徒 募 集	生徒募集	①定員確保のための活動ができていますか	A	ア 定期的な学校訪問だけでなく、空き時間に訪問へ行っている。 イ 体験入学や小学校への出前講座、iPadを活用した出前講座を実施し、魅力を伝える努力をした ウ 在校生の保護者とも連携を取りながら、募集活動ができた エ 小学校の管理職や知人の教諭等を核としたネットワークを全県下に少しずつ浸透させることができた	ア 塾訪問やセレクションの実施とともに、募集を積極的に行い、特進コース・高校を増やす努力が必要。 イ 他校との違いを比較分析し活かす努力が必要。
		②退学者を出さないよう努めているか	A	ア 各担任で退学者を出さないように、1対1で話す機会や教育相談などを小まめに実施し、心のサポートやケアを充実させている。 イ SCの協力も有り、担任を中心に早めの対応が心がけられている。	ア 小中学校の先生方との連携を持ち、個々に関するより良い指導方法を今後も探る。その上で全職員での情報共有を促す必要がある。